

を増し、興味の無い内容はいっそう興味を失う傾向がある。また、都市の場合はすき、きらいの幅が広がっているのがめだつ。

E— 8 家庭科学学習内容に対する児童の興味 (第2報)

広島大教付高 道丹 博子

1. 小学校家庭科の学習内容に対する、児童の興味は、学習前と学習後とは、どのような差異を示すかを一対比較法によって、都市と農村の両地域について比較検討した。

2. 学習前、昭和40年5月～7月と学習後、昭和41年3月のそれぞれの期間に、広島県の都市と農村のそれぞれの地域の1小学校の第5・6学年の児童を対象に調査用紙を配布して調査を行なった。

調査用紙の質問項目は、現行の小学校家庭科学学習指導要領の内容を20項目に精選して、190対の項目を作成した。学習内容の説明をし左右いずれか学習したい方の内容に○印を記入させた。どちらも学びたい、どちらも学びたくない場合は、多少でも学びたい方に必ず○印を記入させるようにした。

3. アイロンの使い方、ミシンの使い方、日常食の調理、食事作法、食物の栄養・献立などは都市・農村ともに学習前の興味は大であり、学習後もさらに興味は大となっている。

日常着の正しい着方、つくろいもの、衣服の長期保存、日常のそうじなど、都市・農村ともに学習前の興味は小であったが、学習後はさらに興味は小となっている。

学習することにより、興味のある内容はいっそう興味